

令和3年度(2021年度) 第3回とよなか都市創造研究所運営委員会 議事要旨

日 時 : 令和4年(2022年)2月18日(金) 18時00分～19時50分
傍聴会場 : 人権平和センター豊中3階
出席委員 : 石川委員、草郷委員、肥塚委員長、宗野副委員長、井加田委員
事務局 : 寺田、石村、松田、比嘉、平田
傍 聴 : 0人
備 考 : 新型コロナウイルス感染防止の観点から ZOOM によるオンライン会議の形式
で実施した。

○開会

○案件(1) 令和3年度(2021年度)調査研究について(要約)(報告)

資料: 資料1「令和3年度(2021年度)調査研究について(要約)(報告)」

≫ 少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究Ⅳ

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・ 委員: 5種類の人口推計モデルを用いて市内7地域の将来人口推計を行っている。ある地域では、推計モデルによって人口増加または人口減少という異なる結果が出て、別の地域ではどのモデルでも人口増加という結果が出ている。この違いの要因は何か。
- ・ 事務局: もともと人口推計手法は、増加するときは大幅に増加にぶれるという傾向がある。地域の人口規模や移動率(大規模マンション建築など)によって大きくずれてしまうので、それをどう補正するかが人口研究の課題になっている。
- ・ 委員: 地域ごとにぶれの要因を整理すると、より精度の高い人口推計になるのではないか。
- ・ 事務局: 報告書では、モデルによる推計値のぶれの要因と地域別の推計手法について詳細に説明する。
- ・ 委員: 推計モデルを比較している表で、○×の他に△という評価がある。△とはどういう評価か。
- ・ 事務局: 恣意的ではあるが、×にするほどではないという主観的評価が入っている。

- ・委員長：この評価結果についても、なぜそうなるのか、報告書で説明してください。
- ・委員：豊中市の人口構成などについて全国や近隣市と比較しているが、全国の都市近郊という視点で比較してみてはどうか。
- ・事務局：その視点で比較してみて、面白い特徴が出ればまとめたい。
- ・委員：推計値と実績値の差が約 4000 人で許容範囲内という説明があるが、許容範囲の基準は何か。
- ・事務局：許容というのも恣意的にはなるが、人口に対する割合かと考えている。なお、推計値と実績値の差は、データ上の制約でこれまで含められなかった外国人の人口移動を含めたことで純移動率が上昇したことや、30 歳代の女性での出生率の上昇などが理由であると考えられる。この点も報告書では詳しく説明している。
- ・委員長：専門的にはなるが、推計値の差が人口の何%ならば許容範囲なのか、などについても報告書で説明してください。

≫ 「南部地域活性化推進に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：南部地域の単身者比率を市全体と比較している図があるが、他の 7 地域との比較も必要ではないか。また、地域環境評価結果を 7 地域間で比較しているが、項目毎にまとめた上で、以前の調査（H28 年度）と今回の比較をしてはどうか。また、ヒアリングが 4 名と少ないのが気になる。
- ・事務局：ヒアリングについては、人数が少ないと結果の一般化は難しいが、対象者は地域のキーパーソンとなる人たちであり、南部地域を分析する視点をもたらえたと思う。
- ・委員：当初、アンケートでは南部の魅力を聞いていたのに、ヒアリングはソーシャル・キャピタルの観点でまとめられていて、一貫性がなく感じる。
- ・事務局：内容に整合性が取れるように修正する。
- ・委員：魅力という言葉で「懐かしさを感じる」「味がある」などに言い換えることで地域イメージが変わってくるのが面白いと思った。各地域の回答者の属性にばらつきはあるか。満足度は属性によって変わると思う。地域別だけでなく、単身者などの属性別の分析も行ってみてはどうか。

- ・事務局：回答者の属性は、南部地域で女性比率と単身者率が少し高い他には、顕著なばらつきはない。また、アンケート回答者数があまり多くないので、細分化すると統計的な処理ができない。傾向だけでも出るかどうか試してみる。
- ・委員：ヒアリングの対象者が、困っている人をサポートする拠点づくり、居場所づくりに取り組んでいて、その経緯や運営について聞いたのが興味深い。このような内容は定量的アンケートではわからないことで、インタビューでしか聞けない。このような活動は、地縁型組織とか地域自治協議会が中核になっているのか、NPOなどの組織で行っているのか。これはソーシャル・キャピタルにつながっていくのではないだろうか。
- ・事務局：ヒアリングでは、地縁というよりは外部から来た人が個人で手探りで始めた活動がつながって現在の形になったという印象。そのような外部から来た人も排除しない、受け入れてくれるという地域だったからできた、という要素もあると思う。
- ・委員：他市の事例ではあるが、子ども食堂などを運営する人は、地縁型組織には属していない、個人的な思いから始める人が多いという。ただ地縁と無関係で活動することはできなくて、個人と地域をつなげるハブになる人がいた、ということ。何か参考になれば。
- ・委員：回帰分析で説明変数・従属変数と共に2項にまとめているのはなぜか。
- ・事務局：わかりやすさを重視したためである。アンケートの回答は4～5段階で聞いているが、肯定的・否定的という2項にしたほうがわかりやすいと判断した。

≫「豊中市のアンケート調査の活用に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：提言としてノウハウの共有とあるが、ノウハウといっても幅が広く、どのような場面を想定しているのか。
- ・事務局：アンケート調査の初期段階で、サンプル数はどう決めたらいいのか、委託業者のマネジメントはどうするか、といったことが多い。
- ・委員：調査の段階によってサポートの仕方が変わってくる。設計段階か分析段階か、どの時点でどういう困りごとがあって、どういうツールで支援できるか、ということも

整理するとよい。

- ・委員：アンケートは結果を出しやすいがコストがかかる。アンケート結果の共有が少ないのはもったいない。既存のデータ、市のデータだけではなく国のデータなどの活用方法をアドバイスすることも有効ではないか。
オープンソースを集めて分析する、何が重要な情報かを嗅ぎ分けるマインドが大切。設計段階で、このアンケートは必要なのか、という問いを立てることも大切。
- ・委員：アンケートは1回限りのものが多いが、継続して取った方が有益なことが多い。アンケート対象者との関係構築も必要である。結果を公開し、共有し、データの意味を理解しあう関係づくりも重要。
- ・事務局：示唆深いご意見をいただいたので、報告書に反映したいと思う。

○案件（2）令和3年度（2021年度）とよなか地域創生塾について（報告）

資料：資料2「令和3年度（2021年度）とよなか地域創生塾について（報告）」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：個人の企画が面白い。案件（1）で、地縁型ではなく個人で始める人が増えていると言ったが、ここでもそういう兆候が見られるのかもしれない。

○案件（3）令和4年度（2022年度）事業計画（修正案）について

資料：資料3「令和4年度（2022年度）事業計画（修正案）」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員長：第2回で指摘した点については修正されています。他に意見はないようですので、この計画で進めていただければと思います。

○案件（4）その他

- ・事務局：比嘉研究員が第12回都市調査研究グランプリを受賞いたしました。この2月17日にオンラインで授賞式が行われました。また、令和3年度（2021年度）機関誌は3月に発行予定です。監修の石川委員ありがとうございます。

- ・委員長：それでは以上で本日予定しておりました案件はすべて終了です。これで令和3年度第3回のとよなか都市創造研究所運営委員会を終了します。ありがとうございました。

○閉会